別紙１　令和２年度普及活動成果

農地マネジメントの推進

要約

農業従事者の高齢化と後継者不足により耕作放棄地が増加する中、担い手へ農地を集積することで農地の有効利用と集落の活性化を図る農地中間管理事業による農地の流動化を推進。関係機関の連携による事業推進と合わせて、高収益作物の検索と栽培支援による農地活用モデルの確立を進めることにより、担い手へ9.1ha を転貸。

現状(背景)と課題

- 農業従事者の高齢化と後継者不足により、耕作放棄地が増加。
- 農地中間管理事業の認知度が低いこと、管内全域が中山間地又は山間地のため条件不利農地が多数あることにより、担い手への農地集積が停滞。

目標

- 農地中間管理事業マッチング面積　１２.2ha
- 機械化モデル実践　８0ha
- 有望品目の栽培取組面積　２００ａ

活動内容

- 農地マネジメントチーム会議での推進方針による農地中間管理事業の周知活動等の事業推進。
- 土地利用型野菜の機械化による省力化技術を取り入れた農地活用モデルを推進。
- 水稲に代わる高収益作物の検索と生産支援。

成果

- 農地マネジメントチーム会議（述べ6回）、地元説明会等（述べ２２回）でパンフレット等による事業周知実施、Ｒ２年度マッチング面積8.7ha。
- ２年間で供試してきた省力化機械の導入と、新規機械（ドローン薬散）の実証展示を実施。
- 新規品目（スイカ、スイートコーン）及び新規作型（カボチャ抑制栽培）の実証展示を実施。

農地マネジメントチーム会議(9/25 吉野町)

地元説明会（7/17 五條市野原町）

スイカ作付計画打合せ（ゆめ野山）

キャベツ移植機実践と収穫台車(右)（ゆめ野山）

南部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手農地マネジメント係　堀野、長城
農地中間管理事業

普及活動のポイント

- 農地マネジメントチーム会議を定期的に開催することで、農地と担い手に関する情報を共有し関係機関が連携を図ることで担い手への農地の流動化を推進。
- 地域で唯一の集落営農組織である農事組合法人ゆめ野山に協力を仰いで中山間地での機械化モデルの実証に取り組むことで、他の担い手の保有農地拡大による農地の有効活用が進展。
- 地域に適した品種、作型を検索し、担い手の農地有効利用や経営の安定化に活用。

対象の変化

- 農地をより多く活用するために必須となる機械化による省力化体系を確立するため、ゆめ野山において野菜移植機、収穫台車を導入。
- 販売先の多様化の取り組みを支援した結果、スイートコーン、スイカで作りやすさ、販売高に関して高評価を獲得し、普及員との信頼感がより深まった。

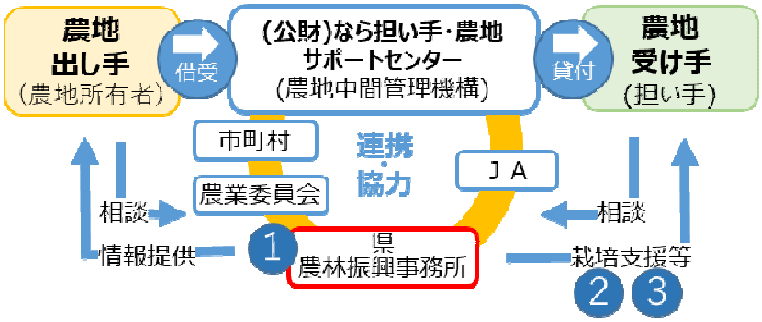
対象者からのコメント

- 経営改善に効果的な機械導入の順位がわかり、今後の営農計画に活用。
- 農産物販売額の向上に繋がる適地適作を実践。

これからの活動ビジョン

- 集落営農の組織化等により農地中間管理事業を進め、担い手が不足する地域への農地の有効活用を推進。
- 高収益作物の検索を行い、担い手の農地有効活用や経営の安定化を推進。

活動体制



用語解説

農地中間管理事業
「高齢化」や「後継者がいない」などの理由で耕作できない農地を借り受け、担い手農家に貸し付ける国の制度。奈良県では『なら担い手・農地サポートセンター』がH26に知事の指定を受け事業を実施。

農地マネジメントチーム
農地中間管理事業を推進するため、市町村ごとに設置。県と『なら担い手・農地サポートセンター』が先導し、市町村、農業委員会、JA とともに農地の出し手の掘り起こしによる農地のマッチングを推進。